

ごあいさつ

第 31 号の熊本博物館『館報』の発刊にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

当館は、昨年(平成 30 年)12 月 1 日に 5 年 5 カ月ぶりにリニューアルオープンいたしました。

それまでの経緯を大まかに振り返ってみますと、平成 22 年度から本格的な改修議論がなされ、同 23 年度にリニューアルに向けた「基本構想・基本計画」が策定されています。これを基に平成 25 年 7 月から事前調査に入り、同 27 年 7 月より改修工事が始まりました。

工期中、平成 28 年熊本地震による影響もございましたが、設計・施工、資料等の修復、展示などの様々な段階や場面で力強いご支援ご協力を賜りながらリニューアルオープンを果たすことができました。関係者並びにお力添えをいただきました皆様方に心からお礼を申し上げる次第です。

本館報は、平成 30(2018)年度における当館事業及び調査・研究の報告をまとめたものですが、昨年度は長年にわたる改修事業の総決算として無事にリニューアルオープンに辿り着くことができるのか、職員一同大変緊張した年でもありました。それ故に、今回の館報発刊にあたりましては感慨もひとしおです。特に、熊本城天守閣から移設・修復展示した永青文庫所蔵『細川家舟屋形』(御座船「波奈之丸」の舟屋形部分)につきましては、一つ一つの貴重な部材が慎重かつ丁寧に組み立てられていく作業を近くで見守っていたことを鮮明に思い出します。

休館中は子どもたちに人気の高い「子ども科学・ものづくり教室」を南区域南町の塚原歴史民俗資料館(当館所管)や熊本市子ども文化会館を利用しながら定期的に開催するとともに、「熊本博物館からのお出かけ事業」としまして熊本市内の小学校に学芸班職員をゲストティーチャーとして派遣するなど、リニューアル後の当館に子どもたちが親しみをもって訪れてくれることを願いながら「学校教育支援事業」にも努めてまいりました。

また、塚原歴史民俗資料館でも通年講座「古文書講座」「考古学講座」等を行い、多くの方に受講していただいておりますし、郷土の偉人を顕彰する目的も併せて『「ブラジル移民の父」上塚周平と上塚家の人々』と題した特別展を開催し、その会期中には関連講演会も実施するなど多種多様な事業に積極的に取り組んできたところです。

再開後の当館では、リニューアル記念展としまして『記憶を未来につなぐ博物館』という企画展を開催し、これまで公開していなかった収蔵品を中心に今年 4 月初旬まで披露しました。特にオープン当日の夜には、熊本城おもてなし武将隊のご協力も得てナイトミュージアムトークを行い、多くの来館者で遅くまで賑わいました。

それから早いもので、リニューアルオープンから 8 ヶ月余りが経ちます。その間、多くの方々のご来館され、新しくなった博物館の諸事業を楽しまれております。その中でも、プラネタリウムは子どもたちだけでなく幅広い世代の皆様にご観覧いただいております。これからも来館者満足度を高めるような事業展開を図っていく所存です。

新年度を迎え、令和という新時代とともに熊本博物館も本格始動いたします。市民の皆様をはじめ当館に関心を寄せてくださる全ての皆様方に親しまれる博物館となりますよう、充実した取組を進めてまいります。今後とも、ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和元年 8 月
熊本博物館長 植木 英貴